

(様式第4号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	第2回 上田市環境審議会
2 日時	平成29年 8月 4日(金) 午後2時00分から午後4時20分まで
3 会場	市役所本庁舎 6階 大会議室
4 出席者	澤山定夫会長、高橋伸英副会長、丸山勝也委員、召田祐治委員、一之瀬禮子委員、山崎修子委員、富岡道雄委員、末広繁和委員、吉原泉委員、丸山かず子委員、松井よし枝委員、池田一弘委員
5 市側出席者	小宮山生活環境課長、大森環境政策担当係長、高橋主事、中野主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年 8月7日

協議事項等

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項

(1) 平成29年度環境レポートの報告について

・資料に沿い、事務局から概要を説明

「協議内容」

(委員) 河川のBODとはどういうものか説明して欲しい。

(事務局) 5日間の溶存酸素の消費量を測定して求める有機汚濁の指標である。市内の多くの河川の環境基準は2mg/Lであり、この基準を達成するために排水等を規制する基準がある。

(委員) オレンジバスを市民の皆さんに知ってもらいたい。

(事務局) 継続して周知を図っていきたい。

(委員) 光化学オキシダントの基準超過日数が増えている。昨年度、中国から飛来する物質による影響と聞いていたが、市として対応することはできないか。

(事務局) 中国の経済成長に伴って産業活動が盛んになり、偏西風に乗って窒素酸化物や炭化水素等の大気汚染物質が運ばれてくる。中国への働きかけが必要であり、市としての対応は難しい。

(委員) 今後も光化学オキシダントを指標として残すのか。

(事務局) 上田市の場合、光化学オキシダントが発生してもすぐに大きな健康影響が及ぶことはないが、今後の指標の扱いは検討したい。

(委員) この環境レポートは市のホームページで公表されるのか。公表するとしたら、目標値に対する評価を、
、
、
×のように表示してわかりやすくしてはどうか。

(事務局) 環境レポートは、環境基本計画の進み具合を評価、検証するものであるため、現在のように数値等で表現しているが、今後議論していきたい。

(委員) 「守るべき松林を絞り込む」と「水環境へ関心が高まるよう支援する」の内容について説明して欲しい。

(事務局) 「守るべき松林」は松枯れの被害の少ない地域を絞り込んで優先して守るようにしている。「水辺への関心」は市へ職場体験に来た学生(おもに中学生)に水生生物調査を体験してもらったり、職員が公民館等で出前講座を行ったりしている。また、水生生物調査を行う団体等に調査道具を貸し出したり、提供したりして支援している。

(委員) 「川調べ」をやっている人たちから川の生き物が少なくなっているという話が出ているが、護岸工事や流れが変わったことなどの影響を調査しているか。

(事務局) 水生昆虫の幼虫が羽化した後は数が減るので、調査する時期によって数が少なくなること
はある。市内の河川の水質は改善されてきれいになっている。

(委員) 市内の川の生き物が少なくなったというようなはっきりしたデータはないのではないか。

(委員) 松くい虫被害で松が全滅して立ち枯れしている地域があるが、その対策をあげなくてもよいか。また、山に外来樹種が入ってきてブナ林などに影響を及ぼしているが、考えなくてよいか。

(事務局) 担当課に意見を聞きながら、第二次環境基本計画に施策をあげるか今後検討したい。

(委員) 森林整備面積が減少しているが原因はなにか。また、累計の面積はいつからの累計か。

(事務局) 補助金で森林整備を行っているため、補助金の金額が減少したものである。累計面積は当初の環境基本計画の策定時からのものである。

(委員) 松くい虫被害の今後の取組みにある「発注」は「発虫」ではないか。

(事務局) 事業を発注する意味であるため「発注」でよい。

(委員) 雨水貯留槽補助とはどういうものか。

(事務局) 一般家庭の雨どいから接続して雨水を貯めるタンク等の設置に対する補助である。

(委員) 太陽光発電設備の補助件数が伸びていないが、普及のためにピーアールをしているか。

(事務局) 補助件数が伸びていないのは固定価格買取額が下がっていることが原因である。補助申請に関する情報は建築設備業者が把握している。

(委員) 環境家計簿の配布ルートを知りたい。

(事務局) 保育園の年長を通じて家庭に配布するとともに、学校にはメールでデータを送っている。環境家計簿は古いので、これに替わるものがあるかどうかも含めて検討したい。

(委員) 保育園で環境家計簿を配布する際、ボランティアが説明して配布してはどうか。

(委員) 環境マネジメントシステム審査登録補助があるが、エコアクション 21 を加えてはどうか。

(事務局) 商工担当に確認したい。

(委員) パリ協定に関するものはあるか。

(事務局) 現在の環境基本計画を策定する時はパリ協定がなかったため、第二次環境基本計画でどのような指標がよいか検討していただきたい。

(委員) 生ごみ堆肥化処理事業とはどういうものか。

(事務局) 2つの自治会で大型処理装置を導入し、コミュニティのなかで処理してもらっている。

(委員) 堆肥化モデル事業をやったが、その検証をしたか。

(事務局) バイオマスタウン構想のなかのモデル事業としてやった。堆肥化処理事業を進めていきたいところであるが、各自治会の事情や判断になる。

(委員) 一般家庭の太陽光設備の最大出力は市内すべてのものか。

(事務局) 10kW 未満のものはほとんどが補助金を受けているので把握できるが、補助金制度の前に設置したものについては把握できない。

(委員) 民間企業の太陽光発電についてはどうか。

(事務局) 都市計画の届出を受ける分について把握している。

(2) 第二次上田市環境基本計画の策定について

・基礎調査報告書(中間報告)について、事務局から概要を説明

「協議内容」

(委員) 公害苦情件数のうち、空き地・空き家の苦情とはどういうものか。

(事務局) 草木が伸びたり害虫が発生したりして、近隣から苦情が発生している。所有者がわかれば条例に基づいて所有者へ文書等で通知している。

(委員) その他の苦情とはどういうものか。

(事務局) 大気、水質等に分類できないさまざまな苦情である。

(委員) 平成 27 年度の市内の電力使用量が増えているが、原因はなにか。

(事務局) 中部電力が算出して発表しているデータであるが、原因は回答できないとのことである。

(委員) 増えた原因は、市の施設の使用量の変化をみてわからないか。

(事務局) 市の施設だけではないので、原因を特定するのは難しい。

(委員) 二酸化炭素排出量の把握は今後できるのか。

(事務局) 市の施設は把握できるが、市民や事業者の使用量の把握は難しい。そのため、電力会社が

電力データを公表するように、国へ働きかけることが議論された。

(委員) 燃料油のデータは把握できないか。

(事務局) ガソリンや重油等の小売業者の販売量はわかるかもしれないが、市内、市外のどちらで使用されたか把握することはできない。

(委員) 市内、市外でどのように使用されたかを推定する方法を専門家の間でも議論されているが、販売量あるいは販売額だけでも把握するとよい。

(事務局) 国レベルや県レベルでの把握はできるが、自治体レベルで把握するのは難しい。

(3) その他(次回開催予定等)

(事務局) 次回は9月27日(水)午後2時から開催したい。会場は選定中である。

次回は、基礎調査報告書(最終版)についてと、望ましい環境像および基本目標の検討、基本目標ごとの施策の見直しの検討を実施したい。

9 閉会